

デジタル簡易無線を活用した  
無線放送システム

# 1. 特長

## ① デジタル簡易無線による長距離通信

最大5Wによる長距離通信が可能。

## ② システム構築が簡単

ハンディトランシーバーを公民館や自治会長様宅に置くだけで自治会単位の放送が簡単におこなえます。

## ③ 緊急放送にも対応

緊急放送を受信した場合、戸別受信機は電源オフの状態でも強制的に電源が入り、最大音量でサイレンが吹鳴します。

## ④ 停電時でも安心

停電時にはハンディトランシーバーは大容量バッテリーで、戸別受信機は乾電池で駆動します。

## ⑤ 安いランニングコストでの運用が可能

年1回の電波利用料だけで、低料金での運用が可能。（1局につき、600円/年）

## ⑥ 戸別受信機には特定小電力トランシーバーを内蔵

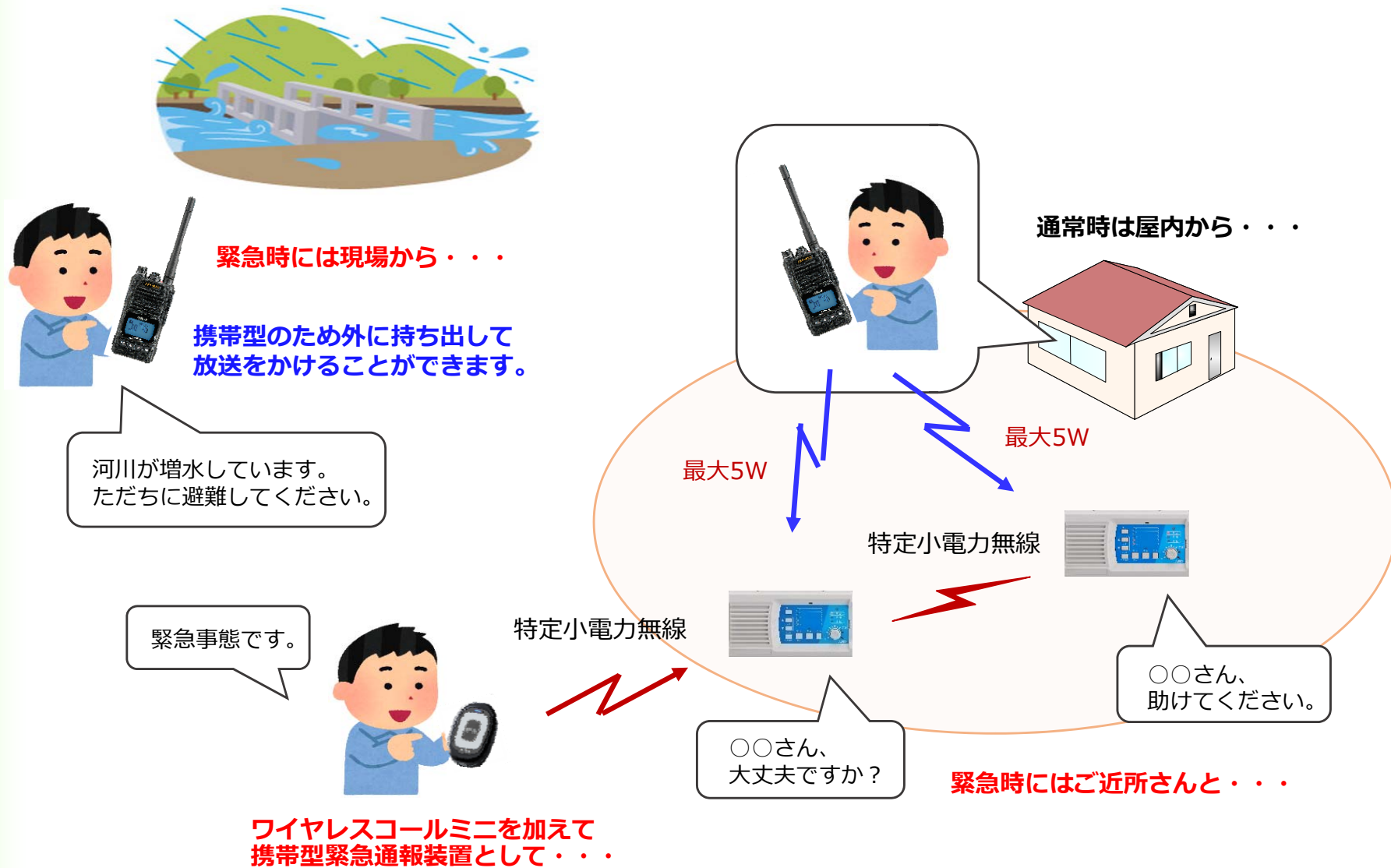
**業界初!**

戸別受信機同士で近距離の無線連絡ができるので、ご近所の安否確認や救助要請などに大活躍。

## 2. システム構成イメージ

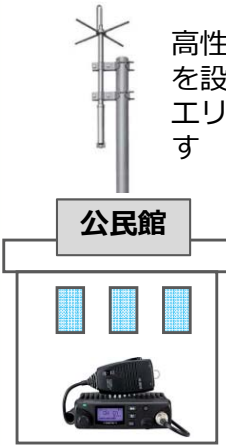
### 1 自治会放送のみ

ハンディトランシーバーを公民館や自治会長様宅に置くだけで、自治会単位の情報提供が簡単におこなえます。緊急時にはご近所の戸別受信機どうしても通信可能です。




# ■ 設置例

デジタル簡易無線  
登録局又は免許局




高性能なアンテナ  
を設置すれば送信  
エリアが広がります

公民館



車からの放送  
も出来ます

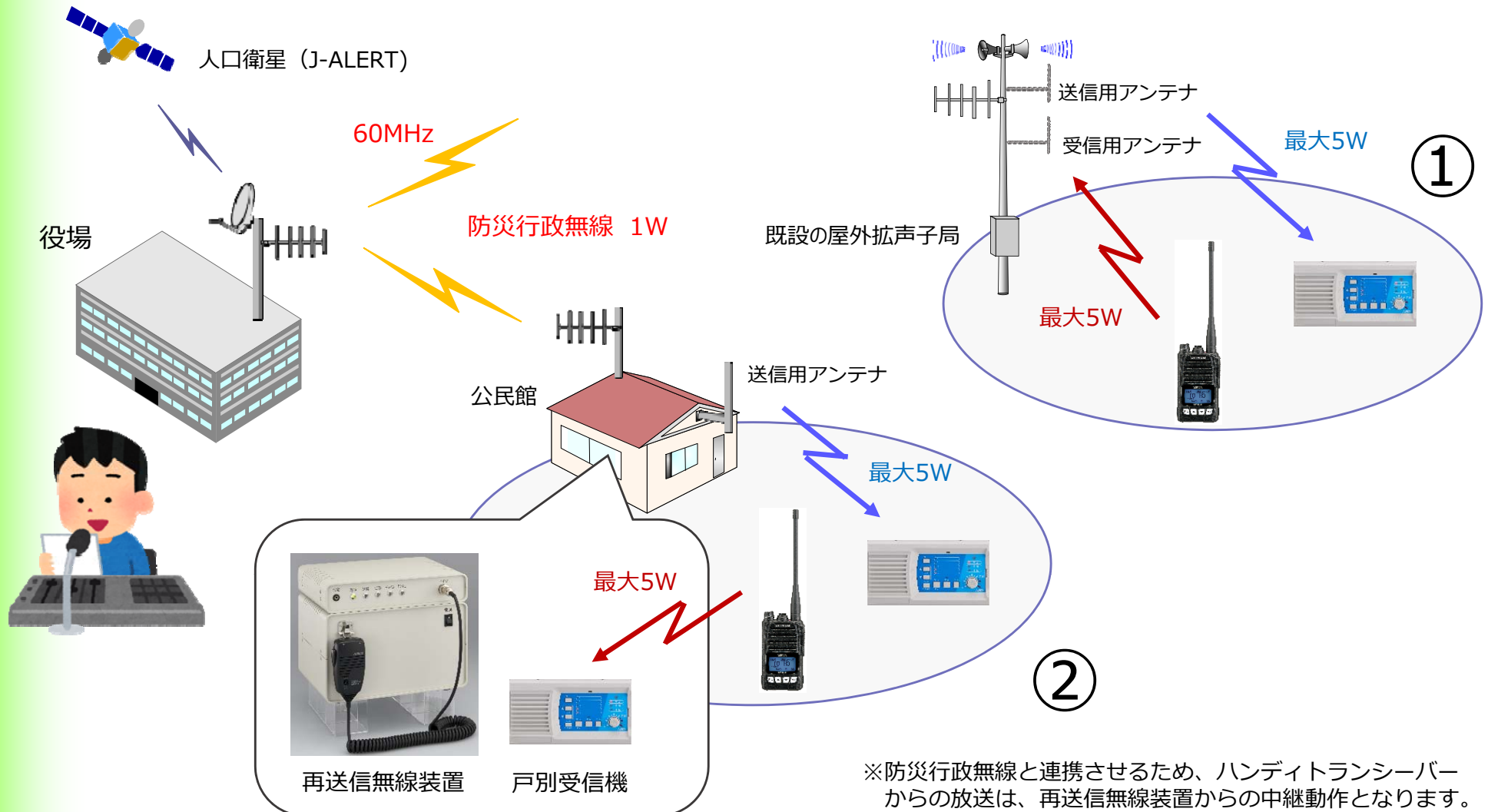


歩いている  
時も放送も  
出来ます



## 2 役場（防災行政無線）からの放送との連携

- ①屋外拡声子局が設置されている場合、拡声子局内部に再送信無線装置を組み込み、役場からの放送をデジタル簡易無線（467MHz 最大5W）で再送信します。
- ②屋外拡声子局のない地区には、公民館等に再送信無線装置を設置し、最大5Wで再送信します。



※防災行政無線と連携させるため、ハンディトランシーバーからの放送は、再送信無線装置からの中継動作となります。

### 3. 機器仕様

※写真はXEAL40D（免許局）です。



(正面)

戸別受信機



浸水センサー搭載の  
ワイヤレスコールミニを加えると、  
さらに多機能に！

#### 【主な特長】

- 戸別受信機どうしで近所と無線通話が可能
- AM/FMラジオチューナー内蔵
- 停電時には戸別受信機は自動で乾電池駆動に、  
ハンディトランシーバーは大容量バッテリーで運用可能
- 電源OFFでも緊急放送は最大音量で自動電源ON
- 自動録音機能 1件5分/8件まで
- 通常放送時は上りチャイム・下りチャイム自動放送、  
緊急放送時はサイレン自動吹鳴

メインPTT

通常放送ボタン  
緊急放送ボタン  
メインPTT

子機間通話  
サブPTT



ハンディトランシーバー

## 4. システム導入のメリット（デメリット）

### 【メリット】

- 公民館や自治会長様宅に無線設備を設置することにより、防災行政無線が停止した場合でも運用することができます。
- 防災行政無線の不感地帯や屋外拡声器からの音声難聴地域に対して安価に戸別受信機までを整備することができます。
- 簡易無線では受信エリアを広くとることが可能です。  
その結果、戸別受信機の外部アンテナ不要箇所が増え、設置工事費を削減することができます。

### 【デメリット】

- デジタル簡易無線では、帯域の関係上、J-ALERTや音楽・ミュージックチャイムは忠実に再現することはできません。（くずれた音になります。）

## 5. システム運用にあたって

各地域の管轄総合通信局にデジタル簡易無線機の免許申請をおこなうことで、本システムの通信運用が可能となります。戸別受信機は特定小電力無線ですので免許・資格は一切不要です。弊社では免許取得までのサポート（代行申請）が可能です。

周波数帯	無線局区分	チャンネル	ランニングコスト (電波利用料)	備考
351MHz	登録局	30ch	包括 年間450円/1局 個別 年間600円/1局	手続きが簡単でレンタル可能 誰でも使用できるため混信が多く、 放送システムには不向き
467MHz	免許局	65ch	年間600円/1局	免許人のみ運用可能 豊富なチャンネル数で混信が少なく、 放送システム向き